

令和5年度 「保育所の自己評価」 結果について

令和6年3月22日
社会福祉法人 ゆめ和
ゆめ和ほいくえん

ゆめ和の“保育理念”を基盤とし、今年度本園の職員で取り組んできたことについてのご報告をさせていただきます。

〈 目 標 〉

「保育技術の向上と見通した保育」

—子ども達一人一人と対話し、一緒に身体を動かして遊ぶ—

〈 課 題 〉

- 計画通り、保育を全職員で、しっかり準備して進める。「伝え合いの保育」
 - ▶ 目的やねらいを把握・理解し、環境を整えて保育を進める。
 - ▶ 領域別の発達を抑えた指導計画の作成。
- 年代や一つの保育から次の関連性や連続性と環境及び仕事量を考えて保育を進める。
 - ▶ 保育を見通す。
やって終わりではなく「その先、どのようにつなげるのか?」「どのように発展させていくのか」を考える。子ども達が次の学年への興味・関心やあこがれ等を持てる保育を組み立てる。
- 個と集団が育つ「保育」
 - 0～2歳児
 - ▶ 甘えをしっかりと受け入れる。
 - ▶ 一人遊びをしっかりと保障する。
 - ▶ たくさん歩く。外に出て遊ぶ。
 - ▶ 各年代の基本的な生活習慣を着実に身につける。
 - 3～5歳児
 - ▶ 各年代の基本的な生活習慣を確実に身につける。
 - ▶ 聞いて・見て・考えて・行動する。
保育士が言葉を選んで何度も伝え続ける。
一方的に教え込む保育はしない。
 - ▶ 小集団活動の導入
友だちとの関係から“集団”のことを考えられるように。
 - ▶ 保育士の動き過ぎや声の出し過ぎ、言葉で動かし過ぎることに留意する。
 - 0～5歳児
 - ▶ 長時間保育を踏まえ、朝夕の環境を考える。
- 職 員
 - ▶ 職員同士、一人ひとりが相手を思いあって協力し、より良い保育を行うためにも言葉を選び、コミュニケーションを活性化する。
 - ▶ 保育の見える化を考える。
 - ▶ 保護者、地域の方との日常のコミュニケーションを強化する。
 - ▶ 園庭開放や交流保育で地域の親子と積極的に交流をする。

〈 課題に対しての取り組み・保育効果 〉

- 0～2歳児 —基本的な生活習慣の基礎を大切にした保育・健康な身体作り—
各学年、活動時間の確保が出来る様、1日の保育の組立てを検討し、実践を重ねた。できるだけ戸外に出て遊ぶようにした事で、異年齢での関わりが増え遊びの幅が広がった。生活面では、ひとりひとりに“一緒にやってみよう”と声をかけながらやり方を伝え、援助していった。

【0歳児】

子ども達と触れ合う事を大切にした。室内の環境面では子ども達の発達に合う設定を考え、家具や玩具の変更を行った。生活習慣の定着を見通して1日の流れの中で声を掛け、保育士が手本を見せながら一緒に行っていた。毎日繰り返すことで子ども達が自ら行おうとする姿や、友だちがしていることを真似しようとする姿も出てきている。ただ、時間の都合で保育士が手を出し過ぎてしまう事もあり、ゆったりと見守ることも必要だと感じた。手遊び、絵本の読み聞かせを活用して、子ども達を飽きさせない、待たせない保育を意識した。食事の面では、全員が風呂椅子に座り、口を大きく開けて食べることができている。散歩では、みんなが歩けるようになり保育士や友だちと手を繋いで歩く事を大切に進めた。六浦三艘第一公園まで行って帰って来ることが出来るようになった子どももいるため、歩くことを続けていく。天気の良い日は毎日園庭に出て身体を動かすことを意識し、夕方外に出て遊ぶことを大切にした。降園時の荷物入れ忘れは、担当同士で声を掛け確認し合う事で減らしていったが、ゼロには出来なかった。

【1歳児】

4月より、日中・夕方共に積極的に戸外に出て遊ぶことや、友だちと手を繋ぐということに少しずつ慣れていけるようにした。保育室を移動する場面などに二人一組で手を繋ぐ体験を積んでいった。室内から無理なく進め、日々の積み重ねを大切にしてきた結果、スムーズに友だちと手を繋ぎ、六浦三艘第一公園で遊んで帰ってくる事が出来るようになった。歩くことだけではなく、公園では近隣の方と関わる機会が多くあり、子ども達から挨拶をする姿が見られるようになってきた。時には近隣の方にどんぐりを見せてもらい、そのお礼にクラスでカードを作って渡すなど、地域との繋がりから豊かな経験を重ねることができた。子ども達から「おさんぽいこう」と声が高くなるようになってきているため、道の端を歩く等、交通ルールの定着に向け、安全で楽しい散歩を積極的に続けていく。生活習慣においては、個々のペースに合わせながら、まずは繰り返して一緒にやってみるところから始めた。子ども達の“自分でやりたい”という意欲を止めず、気持ちを受け止めながら関わりを続けたところ、外に出るための身支度や、着脱、靴を履く等、子ども自身でできることが増え、友だちを見て“やってみよう”と意欲的になる姿や、困っている友だちがいると進んで手伝おうとする姿も出てきている。

【2歳児】

保育士との関係作りの中で“一緒に走ることを大切にした。追いかけてっこを繰り返す中で、すぐに「疲れた」と抜けていた子や、“追いかけられることが怖い”と感じていた子に変化が見られ、みんなで楽しむ姿が増えてきている。活動で身体を動かしていくと、生活の中にメリハリが出来、午睡で体をしっかり休めることができるようになった。並行遊びから、みんなで遊べるが増え、お互いの思いがぶつかることも増えていった。まだ上手く言葉に出来ない互いの気持ちを代弁しながら、「ごめんね」「こうしたかった」を一緒に伝え、言葉でのやりとりを繋いでいった。生活面では、「一緒にやってみよう」と声を掛け、やり方を伝えていった。子ども自身の体と心の成長により、自分でできる事が嬉しく感じる姿が増え、保育士は直接的な援助から、子ども自身が頑張る姿を見守りながら応援し、一緒に喜び合い、必要に応じての間接的援助も大切にしている。行動と言葉が繋がるよう、視覚的にもわかりやすい絵カードを使用しながら進めていくようにした。

◎ 3～5歳児 — 子ども達と話し合いながら、一緒に身体を動かして遊ぶ —

生活の流れは絵カードを通して行っていった。3歳児は、視覚的に分かりやすくした事で、保育士に言われて動くのではなく自ら動くことを目指した。4、5歳児は、生活習慣の確認を含め、1日の流れが分かるように活用した。運動会リズムの曲決めや振付、クリスマス会の出し物は子ども達と話し合いをしながら決めた。子ども達のイメージや思いを形にする事で、意欲的に取り組み、自分の思いを言葉にするのが苦手な子どもには「どっちが良い？」と聞く等、一人一人の意見が出るように一対一の関わりも大切にした。

【3歳児】

朝の会や帰りの会で、毎日同じ流れを繰り返すことを大切にした。自分で姿勢を正すことや椅子の座り方を気にかけて、会に臨む姿へと変わっていった。カレンダーで日付や曜日を子ども達と一緒に確認する事で、「今日は〇日」「明日は休み」等、子ども達からでてくる事が増えていった。生活の流れの中でけじめをつけることで、子ども達の物事に向かう気持ちにメリハリがつくように取り組んだが、保育士からの言葉掛けが多くなってしまった。運動会のクラスリズムで、子ども達が曲を決め、振付を考える体験は、自分で出した案が形になる事の嬉しさや喜びに繋がり、「〇〇したら良いんじゃない？」等、自分の意見や思いを出すことのきっかけとなった。友だち同士の主張のぶつかり合いが、秋頃まで少なかったが、年が明けた頃から主張が増えて小さなトラブルが増えてきた。1つの事をみんなで考える良い機会として、子ども達の思いや考えを引き出せるように関わった。今後さらに増えてくるトラブルについては、引き続きみんなで考えていく体験を大切にしていこう。

【4歳児】

基本的な生活習慣の確認を定期的に行った。早く済ませようとして、手洗いやうがい、服を畳むことなどが雑になっているときには、丁寧に言うべきところと、テキパキ言うところを伝え意識付けを行う事ができた。毎回保育士が確認するのではなく、子ども達同士で確認し合えるように、クラスやグループなどの集団に声掛けをする事で自らの気付きにつなげ、子ども同士で確かめ合える機会を増やすことができた。友だちに言われた事に対して、言い返すことや受け入れないことが多く、保育士が理由を伝えてもその子自身が納得して行動できる事に結び付きにくかった。集団の中で“友だちに迷惑がかかってしまうという場面”で、保育士の説明が

うまくできず、もっとその子自身の気持ちに寄り添いじっくり話を聞いて共感する等配慮が必要だった。生活や遊びを通して、自分の思いが通らないときに、みんなで話し合う機会を多く作った。喧嘩では、「そんなつもりじゃないのに…」と書いていても相手の子どもは「ぶった」「たたいた」という“嫌だった気持ち”を主張する事が多かった。自分の気持ちを言葉にして伝える事ができるようになってきた分、今度は相手の話を聞いて相手にも思いや気持ちがあるという事に気付けるような、保育士の関わりができるのもっと良かった。

【5歳児】

子ども達と一緒に遊ぶこと、触れ合うこと、会話をすることを大切にした。安全を考慮し、遊具などを制限する事も多くあったが、一緒に遊ぶ中で子ども達が今何を楽しんでいるのかが分かり、「またやりたい」「これやってみたい」という声を多く拾う事ができた。聞いて見て考えて動くという事を大切にした。話を聞く姿勢、最後まで話を聞く事、自分で考えてみる事は、4月から繰り返し伝え、みんなで考える事も、グループ活動に取り入れていった。意見が分かれ、話が進まない時は保育士も話し合いに参加して、話を整理しながら進めていった。じっくり考えて納得できるように、時間を確保した上で話し合える環境が作れると良かった。生活の中で、時間や友だちの事を気にして過ごすように関わった。当番活動では、“やらないと友だち(グループ)が困ってしまう”という体験を多くする事ができたが、当番ではない時は気にせずに行動する場面もあった。“手伝いと当番”の違いを子ども達と一緒に考える時間が、もっと作れると良かった。遊びでは、ルールのある遊びを子ども達同士で楽しめるようになった。ルールに対するトラブルも増えて、その都度みんなでどうすれば良いか考える体験を大切にした。「いじわるされた」「ずるした」という言葉が多かったが、保育士が話に入り、そのとき子ども達が感じた事を“適した言葉で相手に伝える”ことで、少しずつ子ども達同士で解決しようと話し合いをする姿が増えていった。

< その他・取り組んだこと >

- ◎ コロナ禍から以前の生活に戻せるよう検討し、出来ることを行っていった。
- ◎ 状況に応じて、子どもの体調確認（視診、触診、検温）を適宜行い、体調の変化に留意した。感染症の予防や防止対策として、玩具や施設内の消毒・清掃に努めた。
- ◎ 長時間保育を考え、朝・夕の保育環境を見直し、実践と検討を行なっている。
- ◎ 職員会議などで人数確認方法や不適切保育についての確認、意識の共有を行い、日々の保育を見直すようにした。

事業計画を基に、1年間「どのような取り組みを行ったのか」「出来なかった事は何か、またその理由は何なのか」を話し合い、若い職員が多い中で、常に伝え合いと確認を怠ることなく、全職員が1つのチームとして仕事に向かえるようにし、次年度への課題を挙げた。

《 次年度の課題 》

- 引き続き、保護者の方とのコミュニケーションを密にとれる様にする。職員が意識的に言い、保護者や子ども達への安心感に繋がられるようにしていく。
- 園での取り組みや日々の保育を、より分かりやすく伝えられるように努め、実践していく。